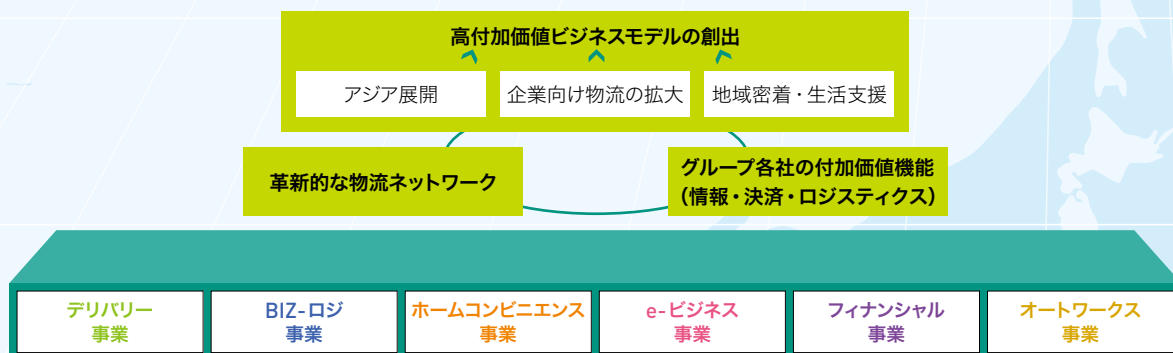


3 進化し続ける 「バリュー・ネットワーキング」構想



2013年に始動した「バリュー・ネットワーキング」構想は、ヤマトグループのコアコンピタンスである国内・アジアのラストワンマイルネットワークとノンデリバリー事業群との融合により、物流を「運ぶ」から「バリューを生み出す手段」へと進化させ、高付加価値ビジネスモデルを創出する物流改革です。羽田クロノゲートを中心とする主要基幹ターミナルや国内外の物流ネットワークの構築、付加価値サービスの創出など、「バリュー・ネットワーキング」構想は着実に現在も進化し続けています。

「バリュー・ネットワーキング」構想全体像



付加価値創出に不可欠なスピード輸送

関東、中部、関西に配置したゲートウェイと各ゲートウェイ間の多頻度幹線輸送により、在庫拠点の集約や商品在庫の適正化など、お客様の経営課題に対する物流ソリューションの提供を可能にしています。

スピード輸送ネットワーク



関西ゲートウェイが稼働開始

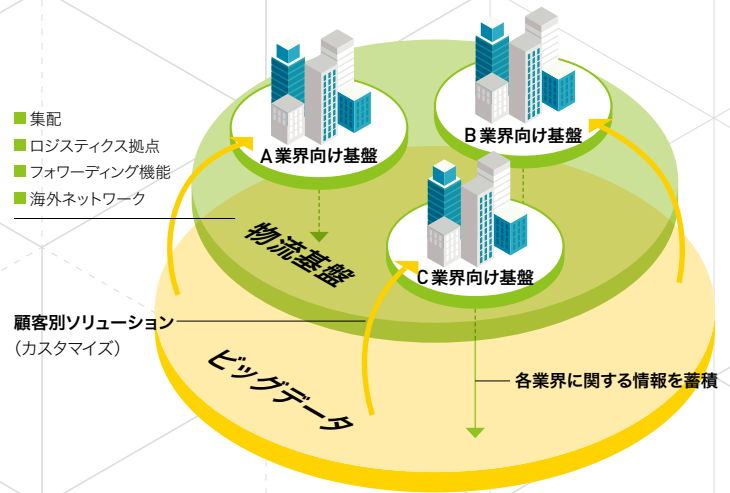
2017年11月、西日本の大消費地圏であり、経済・産業の中心となる関西で、「関西ゲートウェイ」の本格稼働を開始しました。ヤマトグループが誇るラストワンマイルネットワークと高品質な流通加工機能を最新鋭のマテリアル・ハンドリング機器*によって融合させることで、物流のスピードと工程の短縮に革新をもたらしています。



* 仕分けや運搬作業を自動化する作業機械

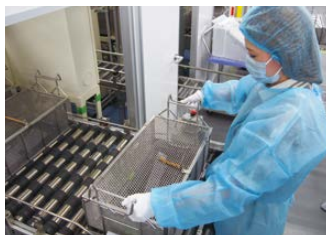
「バリュー・ネットワーキング」構想 進化の鍵を握る業界プラットフォーム

「バリュー・ネットワーキング」構想のさらなる進化に向け、法人・グローバル領域において業界プラットフォームの構築に取り組んでいます。日々の顧客接点で得られる各業界の様々な情報をビッグデータとして活用し、ヤマトグループが築いてきた革新的なネットワーク基盤、付加価値創出機能と有機的に結び付けることで、業界共通の課題やニーズに対するソリューションを提供し、お客様の事業成長に貢献できる領域を広げています。



豊富な実績と最先端のノウハウを活用した ヘルスケア業界向けプラットフォーム

医療機器や医薬品の流通には、安全・安心で高品質な物流体制に加え、薬機法の基準を満たす物流施設、厚生労働省をはじめとする様々な機関への申請などが必要となります。ヤマトロジスティクスは、10年以上にわたるメディカルロジスティクスに関する経験と実績を活かしてこれらを代行するだけでなく、病院で使用される手術器械の貸出しから洗浄、メンテナンス、再貸出しまでをトータルでサポートする「ローナー支援サービス」を提供しています。ヤマトグループのスピード輸送ネットワーク上に



「ローナー支援サービス」の作業風景

ある拠点で洗浄・メンテナンスを施すことで、貸出し1回当たりのリードタイムを短縮し、在庫回転率の飛躍的な向上を実現しています。

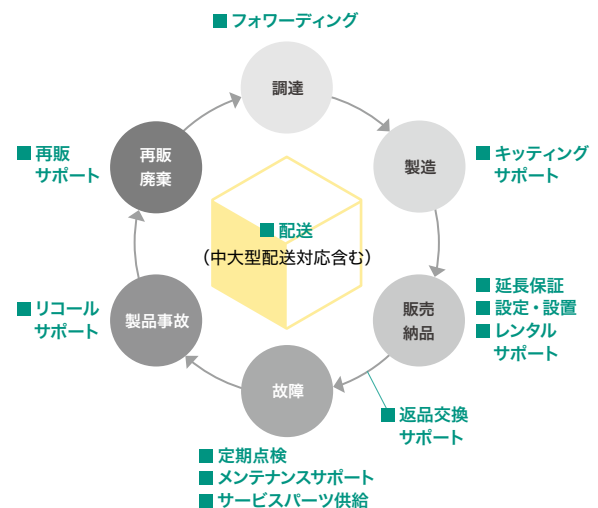
メーカーの製品ライフサイクルをトータルでサポート

2018年4月より組織再編し、ヤマトロジスティクス株式会社(YLC)に、ヤマトマルチメンテナンスソリューションズ(YMM)株式会社の「マルチメンテナンス事業」「リスクマネジメント事業」、ヤマトホームコンビニエンス株式会社の「テクニカルネットワーク事業」、ヤマトシステム開発株式会社の「セットアップ・

ロジソリューション事業」などを集約し、メーカーの製品ライフサイクルをトータルでサポートできる体制を整えました。

これまでYMMは、静脈物流と言われる「製品がエンドユーザーの手に渡った後」のメンテナンスやリコールサポートなどアフターサービスを中心に事業を展開してきました。今回のYLCへの再編により、「製品がエンドユーザーの手に渡る前」の動脈物流も加え、調達から製造、販売、保守、メンテナンス、リコール、リファビッシュ、再販、廃棄という製品ライフサイクル全体を、メーカーとしっかり向き合いながらトータルでサポートし、新しい価値を提供していきます。

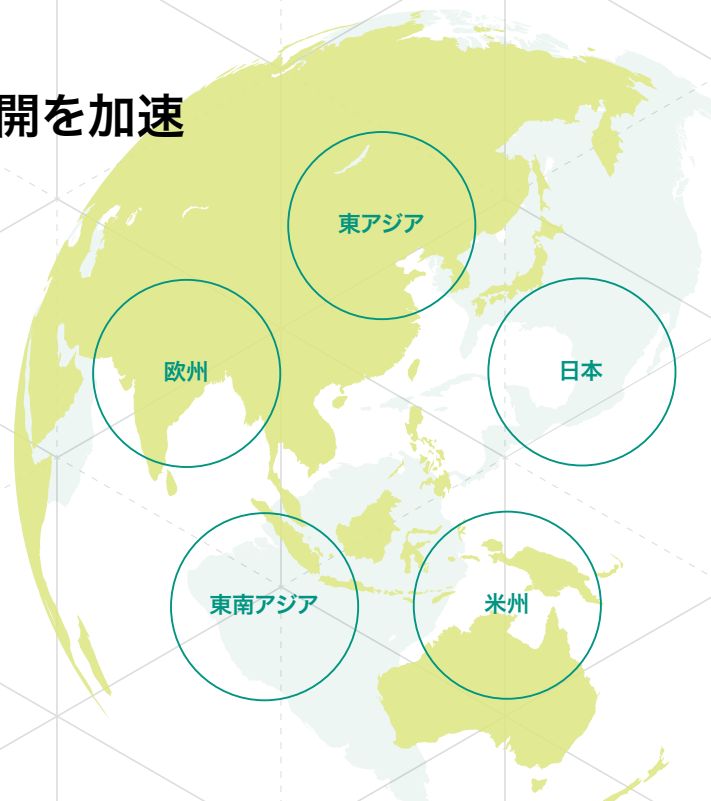
製品ライフサイクルをサポートする機能



世界5極体制でグローバル展開を加速

2017年に香港とASEANがFTAを結ぶなど、国単位ではなく地域全体を一つの経済圏と見るメガFTAの動きが加速しています。ヒト・モノ・カネの流動がより一層ボーダレス化する中、生産体制は各国・地域へと分散し、それに伴いサプライチェーンにおける物流加工ニーズも増加の一途を辿っています。

ヤマトグループは、こうした世界経済環境の変化にいち早く対応し、日本のメーカーや生産者のビジネスをサポートするために日本・東アジア・東南アジア・欧州・米州の5極体制でグローバル展開を推進しています。



クロスボーダーネットワークのプラットフォーム化

現在、5極体制の確立と各極の連携による付加価値創出に向けて、ラストワンマイルのスピード輸送ネットワークに加え、フォワーディングや幹線輸送、ロジスティクス拠点での流通加工などのソリューション機能を備えたプラットフォームの構築に取り組んでいます。

そこで重要となるのが、ヤマトグループの強みである、お客様の立場に立ったデマンドチェーン視点とこれまで培ったノウハウを活かしながら、スピード感をもってネットワークを拡充していくことです。自前主義にはこだわらず、マレーシアのOTLグループの買収や中国広州市の広州威時沛運集団有限公司への出資など他社との提携やM&Aを活用しながらグローバルでプラットフォームを構築しています。

グローバルに広がるコールドチェーン

クロスボーダー輸送は、工業製品や消費財にとどまらず、農水産品などの食品分野にも拡大しています。ヤマトグループは、小口保冷配送サービスに関する国際規格の認証を既に、高付加価値なクロスボーダーネットワークの構築を積極的に推進しています。

小口保冷配送サービス国際規格「PAS1018」の取得および各国への拡大

アジアをはじめとする世界各国で小口保冷配送サービスを安全・安心に利用できる環境を整え、生活の利便性向上や地域経済の活性化、サービスに関わる市場の拡大に貢献すべく、国際規格化されたのが「PAS1018」です。

ヤマトグループが中心となり、日本の物流事業者、海外の団体や荷主企業、有識者など4か国・21機関が参画して中立的かつ公正なプロセスで規格づくりを進め、2017年2月にBSI*から発行されました。

2018年12月末時点で、ヤマトグループの8社が認証を取得しており、中国最大級の小売事業者である京東集団などのパートナーとの連携を含めた高付加価値なクロスボーダーネットワークの構築を推進しています。

* British Standards Institution(英国規格協会)：1901年の設立以来、世界初の国家規格協会でありISOの設立メンバーとして活動する規格策定のプロフェッショナル

